

# 石巻瑞穂会だより

## 第8号

編集・発行

千葉商科大学同窓会

石巻瑞穂会

発行責任者

阿部忠允

発刊日

平成30年12月20日

千葉商大同窓会石巻瑞穂会会長 阿部 忠允

◇石巻瑞穂会総会「新規会員を歓迎する会」を終えて

平成三十年十一月十日(土) 石巻瑞穂会総会「新規会員を歓迎する会」の主題を掲げ盛大に催すことが出来ました。震災から七年八ヶ月が経過し、気持ちにも余裕がでてきた感じが致しました。大学からはサービス創造学部学部長今井重男教授・商経学部経済学科長内海幸久教授のご臨席を仰ぎ十七名の参加となり主催者として面目を保てた感じでした。開会に先立ち、我が石巻瑞穂会常任幹事、高橋克正君・木村正樹君のご逝去に当たり、「冥福を祈り黙祷し、講演に移りました。



石巻瑞穂会総会記念写真 場所 割烹石もり

◇「講演主題」 母校の現状

サービス創造学部学部長 今井重男教授  
本学の現状の紹介の主題で、「母校の現状と学生の勉学への取り組み状況・資格取

得等」のご講演を戴きました。サ創学部の実績ランキングが常にトップで、実践的な学びを強化し進路に希望をかなえた結果として評価されています。商経学部では、全国簿記コンクールで四年連続上位独占の快挙の実績に出席者からは、凄い！感動した！と、連発でした。

◇総会後の懇親会風景



◇総会に出席した会員の顔ぶれ

スポーツ振興で子供達の指導や石巻トリコロール音楽祭の基盤を築いた方、水産業界・地元商店会のまとめ役など、企業経営者や管理職・銀行員 ○○現職教職員、

教職員 ○○商工会議所管理職・市議会議員等、石巻の中心的役割を担っている方々です。再会を約束し、○○商科卒宇都宮康弘君(石商教諭)のエンルで校歌を斉唱して会を締めました。



石巻瑞穂会総会記念写真 場所 割烹石もり

◇郵便局に振替口座の開設

来年度から、振替口座への年会費納入のお願いをすることになりました。ご理解とご協力をお願い致します。先日、郵便局で手続きをしましたが、団体加入なので書類が多く手間取りました。

1 団体名称は「千葉商科大学同窓会石巻瑞穂会」

2 会の目的「本会は宮城県支部と常に連絡を取り合い支援協力のもとに、石巻地域会員の親睦を基調とし連携の輪の拡大に努め、母校建学の精神の昂揚と発展に寄与すると共に県支部のますますの発展と充実に協力することを目的とする。」

3 活動の実態が分かる資料の提出「総会

資料・会則・石巻瑞穂会だより・会員数ホームページの届け)・・・会員名簿は個人情報なので提出しません。  
4 会の運営「この会は、会の目的を達成するために必要な活動を行う」

◎以上の規約内容について事実と相違ないことを証明します・・・記名捺印して参りました

◇新規会員「及川嘉憲君」紹介

平成二十一年経済卒の新進気鋭、若手のホープです。(有)洋菓子カ alun を経営し、石巻地域や鹿島台店・名取店など、県下に6店舗出店し忙しく駆け回っております。工場は、石巻市飯野川にあり、お父さんと一緒に新製品開発に余念がありません。年末にかけて、繁忙期を迎えますと目を輝かせておりました。研究熱心で、常に前向き姿勢には感心させられました。



左側が及川君、右が経済学科長内海教授





故高橋君の司会風景と応援団長故木村君の  
エールで締め括りました「昨年第17回総会」

◇常任幹事「高橋克正君・木村正樹君の  
ご逝去を悼み哀悼の言葉」  
故高橋君は地元企業(株)東邦管工の副工  
場長で、温厚で素晴らしい人物でした。震  
災時には、本業を捨てて広域水道の給水を  
担当し、被災者の為なりふり構わず髭を  
ぼうぼうさせ、献身的に給水活動をしてい  
た姿が思い出されます。総会では、懇親会  
の司会役で会を盛り上げてくれました。  
故木村君は女川町でレストラン古母里  
を経営、震災で全てを失い最愛の奥様も犠  
牲になった。常に気丈に振る舞い女川町の  
商工会サービス部会長・観光協会副会長  
を歴任され、レストラン古母里の再開を目  
指し頑張っておりました。大学時代は応援  
団長だったので、総会では、いつもエールで最  
後を締めて頂きました。御両名のご冥福を  
お祈りいたします。

◇母校創立90周年記念事業に対する募  
金  
「目的」  
学生に対する奨学支援事業・学生の教  
育研究の資質向上に資する支援及び環境  
整備事業  
総会の席上でその主旨を説明し、募金を  
お願いしました。二万二千元集まりました  
ので、石巻瑞穂会として8周年募金事務  
室宛に送金致しました。ご報告いたします。  
ご協力有難うございました。

「石巻瑞穂会執行部役員」この一年よろしくお願ひ致します

- |      |        |      |      |        |      |
|------|--------|------|------|--------|------|
| 顧問   | s34商卒  | 青山幸一 | 常任幹事 | s56商卒  | 木村孝男 |
| 会長   | s40経済卒 | 阿部忠允 | 会計監査 | h2経済卒  | 阿部昭二 |
| 副会長  | s58経済卒 | 佐藤洋一 | 会計監査 | s37経済卒 | 鎌田 稔 |
| 副会長  | s45商卒  | 鈴木道男 |      |        |      |
| 幹事長  | s50商卒  | 田岡吉人 |      |        |      |
| 事務局長 | s57経済卒 | 阿部和芳 |      |        |      |
| 会計幹事 | s57経済卒 | 阿部和芳 |      |        |      |
| 常任幹事 | h2経済卒  | 阿部昭二 |      |        |      |
| 常任幹事 | h3経済卒  | 白鳥章博 |      |        |      |
| 常任幹事 | s48商卒  | 石森義信 |      |        |      |
| 常任幹事 | s48商卒  | 須藤精蔵 |      |        |      |

事業報告会計報告「平成30年度」

平成30年度 千葉商大同窓会石巻瑞穂会事業計画(案)

自 平成30年4月 1日  
至 平成31年3月31日

- H30.4 第1回役員会
- H30.9.1 第2回役員会
- H30.10.1 同窓会宮城県支部総会
- H30.11 同窓会石巻瑞穂会総会
- H30.11 秋田瑞穂会との交流会
- H30.12.1 石巻瑞穂会だより第8号発行
- H30.1.1 第3回役員会

平成30年度 千葉商大同窓会石巻瑞穂会予算(案)

項目	本年度予算額	前年度予算額	△印 減額	比較	備 考
前年度繰越金	198,738	71,062		97.67%	前年度繰越(県補助金含む)
年会費	15,000	16,000	△ 1,000		15名分子予定(会費1,000円)
宮城県支部助成金	2,000	1,000		1,000%	4/25支部からの助成金
預収入	0	0			0 預金利息
ご祝儀	20,000	40,458	△ 20,458		
HP維持管理助成金	10,000	80,000	△ 70,000		大学同窓会本部よりHP助成金(H30)
計	215,738	208,520		7.21%	

項目	本年度予算額	前年度予算額	△印 減額	比較	備 考
通信費	20,000	15,000	5,000		往復はがき120枚(2回分)
	5,000	3,000	2,000		封書発送費切手代(30通)
	0	0	0		0 電話代
	1,500	1,000	500		用紙(A4サイズ)
	2,000	2,000	0		0 コピー代(コピーサービス)
	10,000	8,000	2,000		2,000 インクカートリッジ(6色パック)
	3,000	3,000	0		0 DVD購入代等
	1,000	300	700		700 封筒代
会報発行	5,000	3,000	2,000		2,000 用紙代(100部発行)
役員会	10,000	6,000	4,000		4,000 会議費・往復はがき20枚
秋田瑞穂会交流会	0	0	0		0 お土産代等
親睦会費	0	0	0		0 補助
予備費	68,238	87,220	△ 18,982		△ 18,982 未買開札・手工産等
HP維持管理費	80,000	80,000	0		0 HP維持管理費
庶務費	10,000	0	10,000		10,000 お見舞い・弔電・お悔等
計	215,738	128,520		87.21%	

◇二年後の石巻瑞穂会20周年記念の持ち方  
これからの話し合いになります。発足  
以来多くの紆余曲折があり、やっとヨチヨ  
チ歩きが出るようになった会です。  
二十年の歩みを考えた時、感無量のもの  
があります。東日本大震災で、五年間も  
総会が出来なかった。私たちは全てを失い、  
零からのスタートでした。「一致団結がん  
ばっ」を合言葉に結束して参りました。

編集後記

今年、震災から七年八ヶ月の総会開催  
でした。今年の主題は、「新規会員を歓迎す  
る会」です。若い会員からのパワーを頂き、  
より元気な会を目指し、役員一同頑張ら  
れます。大学本部から、第29号会報「きず  
な」への投稿依頼があり、お引き受け致しま  
した。  
来年度の目標は会員の裾野を拡げる努力  
です。宜しくご協力をお願いします。  
編集責任者「阿部忠允」